

創刊記念「國華」130周年・  
朝日新聞140周年  
特別展

# 誕生名作

つながる  
日本美術

Celebrating  
the 130th Anniversary  
of KOKKA and  
the 140th Anniversary of  
The Asahi Shimbun

Echoes of a Masterpiece:  
The Lineage of Beauty in Japanese Art

[プレスリリース]

# 名作のつながる日本美術の誕生

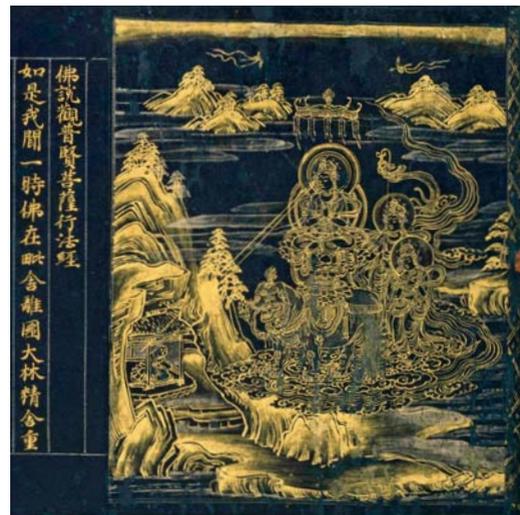
創刊記念「國華」130周年・朝日新聞140周年特別展  
Celebrating the 130th Anniversary of KOKKA and the 140th Anniversary of The Asahi Shimbun  
Echoes of a Masterpiece: The Lineage of Beauty in Japanese Art

## 開催趣旨

日本美術史上には「名作」と呼ばれる作品が数多く存在します。時代を代表する人物ゆかりの名作、伝説的な巨匠の手から生み出された名作、海を越えて日本へもたらされた名作、古典に学び新時代の美意識で生まれ変わった名作など、名作はさまざまなドラマをもって誕生し、受け継がれ、新しい名作の誕生へとつながってきました。

本展覧会では、こうした作品同士の影響関係や共通する社会背景に着目して、鑑真ゆかりの木彫や美しい普賢菩薩像など仏教美術の白眉から、雪舟、宗達、若冲らの代表作、伊勢物語や源氏物語といった古典文学から生まれた工芸の名品、さらには古画に学んで新たな境地を拓いた近代洋画まで、地域、時代を超えた名作の数々を、12のテーマで紹介いたします。材質や技法、特徴的な形やモチーフ、形の意味や作ること自体の意味など、出品作品のつながりはさまざまです。皆さんがご存じの国宝・重要文化財を含む約120件が集まることになってみえてくる、名作たちの「つながり」をぜひお楽しみください。

展覧会ロコノ作品



【部分】

紺紙金字法華経（開結共）のうち観普賢経

平安時代・12世紀 滋賀・百濟寺蔵 ①

【展示期間：4月13日～5月6日】

山中の行者のもとへ柔らかな表情の普賢菩薩が現れる情景を金銀泥で豪華に描き出した、法華経見返し絵の優品です。後白河院の母・待賢門院追善のために制作されたとみられる「金光明経」に表現が近似することから、同じ工房で作られたと考えられます。

## 展覧会のみどころ

### ① ジャンル、地域、時代を超えた、 選りすぐりの「名作」が集結！

重要文化財「伝薬師如来立像」(奈良・唐招提寺蔵)や国宝「普賢菩薩騎象像」(東京・大倉集古館蔵)、国宝「聖徳太子絵伝」(秦致貞筆、東京国立博物館蔵)など奈良、平安から鎌倉時代の仏教美術に始まり、国宝「破墨山水図」(雪舟等楊筆、東京国立博物館蔵)、重要文化財「仙人掌群鶏図襖」(伊藤若冲筆、大阪・西福寺蔵)、国宝「風俗図屏風(彦根屏風)」(滋賀・彦根城博物館蔵)など室町から江戸時代の絵画、国宝「八橋時絵螺鈿硯箱」(尾形光琳作、東京国立博物館蔵)、重要文化財「初音時絵火取母」(神奈川・東慶寺蔵)などの工芸、さらには重要文化財「道路と土手と堀(切通之写生)」(岸田劉生筆、東京国立近代美術館蔵)などの近代洋画まで、時代や地域、ジャンルを超えた名作が約120件集まります！

※会期中、展示替えがあります。

前期展示 4月13日～5月6日、後期展示 5月8日～5月27日

### ② つながる「名作」、つながる「巨匠」！

近年、日本美術の人気はますます高まっています。教科書でおなじみの国宝や普段は公開されていない秘伝などへの関心だけでなく、作家たちの思想やその美術作品が生まれた背景への興味も深まってきました。本展覧会では、日本美術史上の名作たちを一堂に展示し、名作がどのようなつながりで誕生したのか、また巨匠たちが何と(誰と)どのようにつながって名作を生んだのかを、作品を通して明らかにします。日本美術の「入門篇」としても、より深く美術を鑑賞する「ヒント」を見つけるきっかけとしても、楽しんでいただける展示構成です。

### ③ 華やかな名作たちをゆったりと贅沢に味わう！

本展覧会では、選りすぐりの名作たちを、東京国立博物館平成館のゆったりとした空間で贅沢にご覧いただきます。作品から少し離れて鑑賞し、全体像を把握してから隣の作品と比較したり、逆にグッと作品に近づいて作者の息づかいに触れたりするとき、誰もが知っている名作の新しい魅力にきつと気づかされるはず。美術史研究の第一線で活躍する『國華』編輯委員と東京国立博物館研究員との競演による、会場での解説パネルや図録も、その体験を後押しします。

# 第1章

## 祈りをつなぐ

仏像や仏画などの信仰を背景とする美術は、**経典**などに記されたことに基づいて造形化される一方で、特別なゆかりや革新的技法、形をもつ名作を規範として継承し、数々の名作が誕生してきました。第1章では、古代から中世へ、人々の祈りがつないだ**仏像**、**仏画**、**説話画**の数々を展示し、その規範と名作たる革新性に注目します。

### 1. 一木の祈り

天平勝宝5年(753)、中国・唐の高僧**鑑真**とともに渡来した**仏師**たちは、日本の木材に着目し、一本の木から重量感あふれる**仏像**を彫り出しました。同時代の中国においても最新の表現だったこの**木彫像**にちなむ**仏像**は、平安時代前期を通じて数多く造られ、大きな影響を残したのです。



重要文化財 伝薬師如来立像

奈良時代・8世紀 奈良・唐招提寺蔵 ②  
画像提供:奈良国立博物館(撮影:森村欣司)

頭部から台座まで1本の丸太から彫り出す「**一木造**」で、唐招提寺講堂(現在は新宝蔵安置)の木彫群のひとつです。木の重量感とともに、造形的にも独特のポリウムを持ち、古代の如来立像の規範となりました。



重要文化財 伝薬宝王菩薩立像

奈良時代・8世紀 奈良・唐招提寺蔵 ③  
画像提供:奈良国立博物館(撮影:森村欣司)

「伝薬師如来立像」(奈良・唐招提寺蔵、②)と同様、鑑真に随伴して来日した中国の**仏師**によって造られた可能性が高い菩薩像の1軀です。堂々とした体軀の表現や、カヤの一木から彫り出す技法も共通しています。

### 2. 祈る普賢

『法華経』に基づいて表される白象に乗った**普賢菩薩**像は、9世紀半ばに**慈覚大師**円仁が唐から請来した**図像**(現存せず)によって、新たに合掌する姿で表す潮流ができました。ここではこの「**合掌普賢**」につながる**仏画**とともに、信心深い女性の姿を反映した**十羅刹女**の名作もご堪能ください。



【第1・2面は前期展示】

国宝 聖徳太子絵伝 秦致貞筆

平安時代・延久元年(1069) 東京国立博物館蔵 ⑥  
 【展示期間：[前期] 第1・2面、第5・6面、第9・10面 /  
 [後期] 第3・4面、第7・8面】

日本仏教の祖として尊崇される聖徳太子の生涯を描いた絵伝は、大阪・四天王寺の繪堂障子絵に始まり、古代から現代を通じて数多く制作されました。もと法隆寺東院の繪殿を飾った本図は、延久元年(1069)に制作された現存最古の遺品です。



【第1面部分】聖徳太子は厩(うまや)の前で誕生しました。

3. 祖師に祈る

日本に仏教を広めた祖師たちの生涯は、平安時代以降、障子絵や掛幅などの大画面に盛んに描き継がれ、法要などの場を飾りました。ここでは現存最古の祖師絵伝である「聖徳太子絵伝」(東京国立博物館蔵、⑥)ほか大画面説話画の名品を通して、絵伝と絵堂がつなぐ祖師への祈りをご覧ください。

つながり

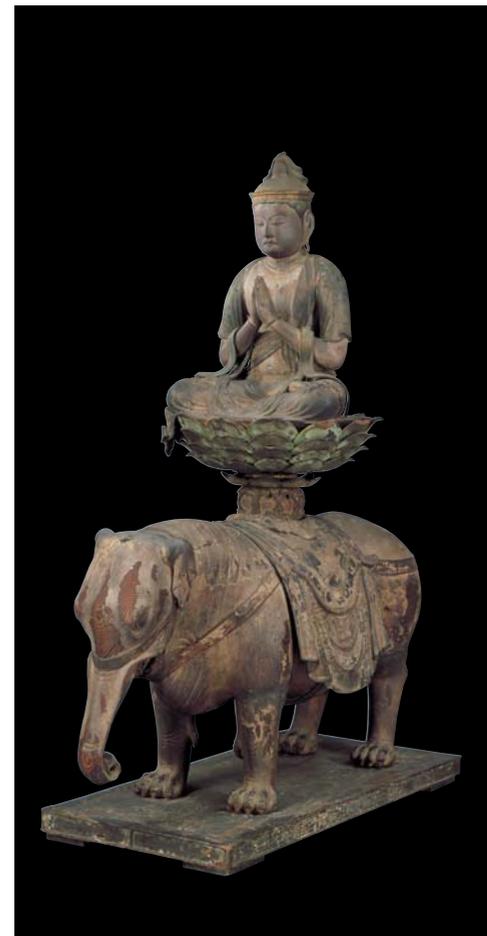
普賢菩薩像は、『法華経』の記述に基づいて、肌は白く輝き、六牙の白象に乗る姿で表すというおもな決まりがあります。さらに天台宗の高僧・円仁が唐からもたらした新しい図像によって合掌する姿に表されるようになります。平安時代後期の法華経信仰の高まりにより、滋賀・百濟寺の「観普賢経」見返し絵(①)や大倉集古館の木彫像(④)、東京国立博物館の絵像(⑤)などの美しい名作が誕生しました。



国宝 普賢菩薩像

平安時代・12世紀 東京国立博物館蔵 ⑤  
 【展示期間：4月13日～5月6日】

明るくあざやかな彩色と精緻な截金が残る、平安仏画の代表作です。白く輝く肉身には淡い朱色の隈が施され、細部まで心と技が尽くされています。頭上には花の天蓋があり、大輪の花々が美しく降る様子が画中に静かな動きを与えています。



国宝 普賢菩薩騎象像

平安時代・12世紀 東京・大倉集古館蔵 ④

普賢菩薩像は法華三昧を修する法華堂本尊や追善供養の本尊として、平安時代に盛んに製作されたことが記録からわかっています。本像はその優美さもさることながら、彩色や截金があざやかに残る木彫像の名作です。

## 第2章

# 巨匠のつながり

近年とくに人気の高い日本美術史上の巨匠たちもまた、海外の作品や日本の古典から学び、継承と工夫を重ねるなかで、個性的な名作を生みだしました。第2章では、雪舟、宗達、若冲という3人の「巨匠」に焦点を絞って、代表作が生まれるプロセスに迫ります。

## 4. 雪舟と中国

雪舟等楊(せつしゅうとうよう)は、南宋時代の夏珪や玉潤など、過去の名画家の作品に学ぶだけでなく、水墨画の本場である中国へ旅し、同時代である明の画風も取り入れて、独自の水墨画を確立しました。ここでは雪舟と中国のつながりについて、実景図、山水図、花鳥図、倣古図の4つのグループで見えていきます。



室町時代の画僧・雪舟等楊は、応仁元年(1467)、47歳のときに明に渡り、足かけ3年の滞在中にさまざまな画技を吸収しました。鶴の姿態が印象的な本屏風は、画面両端に屈曲する松と梅を置き、明時代の花鳥画に学んだ画面構成の方法を駆使しています。

重要文化財 四季花鳥図屏風  
雪舟等楊筆  
室町時代・15世紀  
京都市立博物館蔵 ⑦  
【展示期間:4月13日～5月6日】

重要文化財 四季花鳥図  
呂紀筆

中国・明時代・15～16世紀  
東京国立博物館蔵 ⑧  
【展示期間:4月13日～5月6日】

呂紀(1429～1505)は明時代中期に活躍した、中国・寧波出身の宮廷画家で、写実的な着色の花鳥画を得意としました。本図は呂紀の代表作として知られています。とくに冬景図の大胆な流水や屈折する樹枝と、謹直に描かれた花や鳥との対比は、強烈な印象を残します。



## つながり

雪舟は、同時代の明の花鳥画の特徴を取り入れて、独特の複雑な画面構成を試みました。次世代を代表する絵師・狩野元信は、これらをすっきりと整理しました。その流れを、呂紀、雪舟、元信の、大画面の花鳥画でご覧いただけます。

## 5. 宗達と古典

安土桃山時代から江戸時代初期にかけて活躍した俵屋宗達(生没年不詳)は、「俵屋」という絵屋を営む町絵師でありながら、『伊勢物語』や『西行物語』など古

典文学を主題とした絵画を多く描きました。ここでは扇絵と絵巻の名作を通して、宗達が学んだものの、吸収したものに着目し、その創作の源を探ります。



[右隻]

せんめんはりまぜりょうぶ  
扇面貼交屏風  
宗達派

江戸時代・17世紀 東京国立博物館蔵 ⑨

宗達が営んでいた絵屋「俵屋」は、当時最新流行のブランドでした。宗達が何を学び、どのように作品を作り出していたのか、その謎をとくカギがこの屏風の中に隠されています。



[右隻部分]

## 6. 若冲と模倣

伊藤若冲(1716〜1800)の作品には、既成の形を再利用して新たな造形を作るという表現上の特徴があります。画風を模倣していた頃には中国の宋元画を模写し、また生涯を通じて同じモチーフの同じ型を繰り返し描いて、独自の表現に至りました。ここでは鶴図と鶏図について宋元画の模倣と自己模倣という切り口でご覧いただきます。



せつばいゆうけいず  
雪梅雄鶏図 伊藤若冲筆

江戸時代・18世紀 京都・両足院蔵 ⑪

これから本格的に絵画制作を始めようとする比較的初期の作品で、落款から錦小路のアトリエで制作されたことがわかります。鶏の端正な描き方、岩や雪の形に若冲独特の形態感覚を見ることができます。

### つながり

若冲はいくつかの鶏の型を何度も繰り返し描きました。晩年の代表作「仙人掌群鶏図襖」(大阪・西福寺蔵、⑩)に描かれる鶏は、初期の細密な描写と晩年の水墨画の大胆なデフォルメとを融合した姿であり、一番右の雄鶏の姿は「雪梅雄鶏図」(京都・両足院蔵、⑪)に原型を求めることができます。



重要文化財 仙人掌群鶏図襖  
伊藤若冲筆

江戸時代・18世紀 大阪・西福寺蔵 ⑩

金地に鶏を大きく配した、お寺の本堂を飾る襖絵。異国をイメージするサボテンが描かれ、あざやかな色彩が目を引きつけます。自身で75歳と記していますが、制作年には諸説があります。若冲の描く鶏図の到達点を見ることができます。

### 第3章

# 古典文学につながる

日本を代表する古典文学である『伊勢物語』や『源氏物語』。人々の心に残る場面は、その情景を想起させる特定のモチーフの組み合わせによって工芸品に表され、広く愛されてきました。第3章では、文学作品から飛び出して連続と継承された意匠の名品を、『伊勢物語』から「八橋」「葛細道」「竜田川」、『源氏物語』から「夕顔」「初音」を通してたどりまします。

## 7. 伊勢物語

平安時代初期に成立した歌物語である『伊勢物語』からは、燕子花と橋を表す「八橋」、紅葉に彩られた山道を表す「葛細道」を取り上げます。



伊勢物語図屏風

江戸時代・17世紀 三重・斎宮歴史博物館蔵 ⑫

『伊勢物語』の世界を一望に見渡せる屏風です。右隻に初段から45段のなかから25場面、左隻に49段から121段のなかから23場面を選び、各場面を金雲によって区切って、ほぼ物語の順番に描いています。

からころもきつつなれにしつましあればはるばるきぬるたびをしぞおもふ  
 親しい恋人を京に残し、男が東国へ下る道すがら、八つの橋が架かった川に燕子花が咲いていた。そのときの想いを「かきつばた」にかけて詠んだこの歌は多くの人々に愛され、工芸デザインの定番となりました。



〔蓋表〕



国宝 八橋蒔絵螺鈿硯箱 尾形光琳作

江戸時代・18世紀 東京国立博物館蔵 ⑬  
 【展示期間：4月13日～5月6日】

『伊勢物語』第九段の三河国八橋の情景に取材した意匠の硯箱。蓋表から身側面にかけて大胆にデザイン化した燕子花と橋を表しています。花は鮑貝の螺鈿、葉は金の平蒔絵、橋は鉛板という具合に素材と技法の使い分けも絶妙です。

## 8. 源氏物語

『伊勢物語』に続き平安時代中期に成立した長編物語『源氏物語』からは、垣根に咲く夕顔と御所車を表す「夕顔」と、梅にとまる鶯を表す「初音」を取り上げます。

重要文化財 初音蒔絵火取母

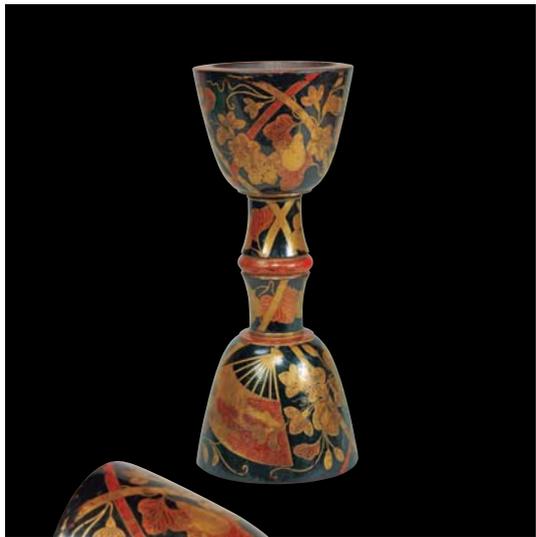
室町時代・15世紀 神奈川県・東慶寺蔵 ⑭

六弁花形に膨らんだ様子が阿古陀瓜に似るために阿古陀形と呼ばれる形式の香炉です。金の研出蒔絵で梅と松、金の金貝で鶯、銀の金貝で「はつね」「幾可せよ」の文字を表しています。『源氏物語』『初音』の歌意に取材した意匠です。

夕顔蒔絵大鼓胴

江戸時代・17世紀 東京国立博物館蔵 ⑮

『源氏物語』『夕顔』の情景に取材した意匠の大鼓の胴。平蒔絵に絵梨子地を交えて、夕顔・扇・竹垣の文様を表しています。桃山時代に流行した高台寺蒔絵の技法の系譜に連なるが、高台寺蒔絵には珍しい文学意匠の作例です。



## 第4章

# つながるモチーフ／イメージ

身近な自然物や人々の内面を表し今に伝わる名作たちは、すでにある名作の型や優れた技法を継承しつつ、斬新な解釈や挑戦的手法によって誕生してきました。第4章では、「山水」「花鳥」「人物」の主題と近代洋画の名作からさまざまなモチーフや型をご覧いただき、人と美術のつながりをご覧いただけます。

## 9. 山水をつなぐ

私たちを包む大自然の風景は、見る人の心を投影しながら技法も形もさまざまに表現されてきました。ここでは湿潤な大気に水墨の濃淡を駆使して描きつがれた「松林」と、あざやかに桜が咲き誇る「吉野山」を通して、名所や風景がいかに描き継がれてきたかをご覧ください。



国宝 しょうりんずびょうぶ 松林図屏風 はせがわとうはく 長谷川等伯筆

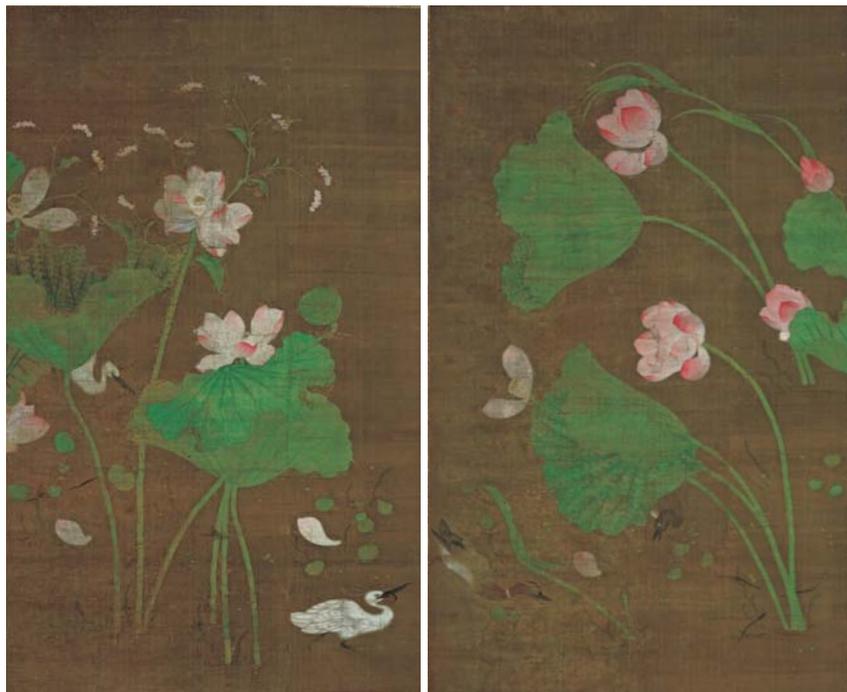
安土桃山時代・16世紀 東京国立博物館蔵 ⑩

【展示期間：4月13日～5月6日】

長谷川等伯個人の代表作というばかりでなく、日本水墨画を代表する作品としてよく知られています。しかしその表現には、中国絵画からの強い影響も認められます。見る人を包み込むような広がり、どこかで見たような共感が沸き起こってきます。

# 10. 花鳥をつなぐ

季節とともに移ろう身近な花や鳥。そこにはときに人々の心情が投影され、時を超えて愛されてきました。ここでは「蓮」と「雀」に注目し、中国から日本へとモチーフが伝承され、連綿と描き継がれた様相をご紹介します。



重要文化財 蓮池水禽圖 於子明筆  
中国・南宋時代・13世紀 京都・知恩院蔵 ⑱

向かって右には咲いた蓮と蕾が青々とした葉とともに夏の風に揺られ、左では花が散り始め、葉も変色し枯れてきています。蓮池水禽図は中国・江南の毘陵において盛んに描かれ、宋時代に蓮の蕾から開花、満開、衰枯へとうつろう時を表す定型ができました。



重要文化財 蓮図 能阿弥筆

室町時代・文明3年(1471)

大阪・正木美術館蔵 ⑲

【展示期間：4月13日～5月6日】

室町將軍の同朋衆として文化活動に関わった能阿弥(1397～1471)は、その没年にあたる文明3年(1471)「あけぬ暮ぬ ねがふはちすの花のみを まつあらはせる一筆ぞこれ」の歌とともにこの絵を遺しました。極楽浄土で往生者を包む蓮の花が中国・南宋時代の画僧、牧谿の画風で柔らかかに表されています。



〔蓋表〕

重要文化財 野辺雀時絵手箱

平安時代・12世紀 大阪・金剛寺蔵 ⑳

この手箱の器体表面には、野辺でさまざまな姿態を繰り広げる雀たちの様子が金・銀の時絵を駆使して写実的に表されています。その意匠は中国の宋時代の花鳥画に取材したと考えられ、工芸意匠というより絵画の小品のようです。



# 11. 人物をつなぐ

17世紀初頭、現世を楽しもうという時代風潮の高まりにあわせ、同時代の風俗や内面意識を主題とした人物画（風俗画）が描かれました。ここでは男女の間で交わされる視線と、古典文学からの図柄の転用が表す意味に注目して、風俗画や浮世絵の誕生について考えます。

## つながり

「**琴棋書画**」という東アジアの教養を同時代風俗で表した「**風俗図屏風**（彦根屏風）」(20)。交わされる人々の視線と姿態の妙は、「**湯女図**」(21)や「**見返り美人図**」(22)につながっています。



国宝 **風俗図屏風**（彦根屏風）  
江戸時代・17世紀  
滋賀・彦根博物館蔵 ⑳  
【展示期間：5月15日～5月27日】

金地に15人の男女といくつかの器物を配しただけで、場の説明は極力控えられていますが、それぞれの配置によって物語が展開するような緊張感が生み出され、遊里の雰囲気が描き出されています。彦根藩主井伊家に伝来した作品です。



見返り美人図 菱川師宣筆  
江戸時代・17世紀  
東京国立博物館蔵 ㉒

切手になったことでよく知られる菱川師宣の代表作。当時流行のファッションに身を包み、体をくねるように振り返った姿が魅力的です。「菱川やうの吾妻 備」と謳われたのはこのような女性の姿だったのでしょう。

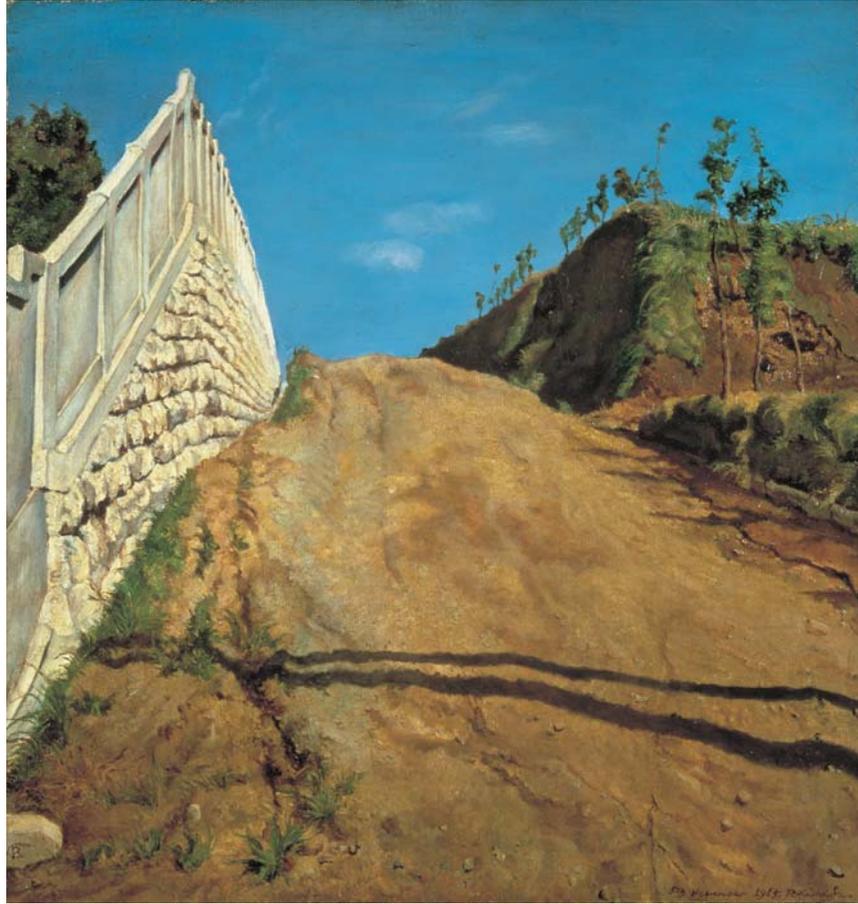


重要文化財 **湯女図**  
江戸時代・17世紀  
静岡・MOA美術館蔵 ㉑  
【展示期間：4月13日～5月13日】

絵の右側外に強い視線を送る女性たち。もとは、右側に画面が続き、そこに描かれた人物と呼応するような図柄の背の低い屏風だったと考えられます。女性の肉体を感じさせる描写と視線による広がり、描かれた湯女の魅力となっています。

## 12. 古今をつなぐ

19世紀に西洋から新しい表現技法が一斉に流入すると、日本美術は大きく変容しました。ここでは大正から昭和にかけて活躍し、写実的画風で知られた洋画家・岸田劉生（1891〜1929）を取り上げ、東洋絵画に学んで意識的にその伝統につながった様子を、その代表作「道路と土手と塀（切通之写生）」と「野童女」からみていきます。



重要文化財 道路と土手と塀（切通之写生）  
岸田劉生筆

大正4年（1915） 東京国立近代美術館蔵 ㉓

武蔵野に開発が進む代々木付近。晴れ渡った青空に向かって盛り上がる赤土の道路。それに両側の土手と塀が描かれているだけです。地面には文明開化の象徴である電柱が影を落とし、生命力あふれる細密描写が時代を視覚化しています。



重要美術品 くだんうしがふち  
葛飾北斎筆

江戸時代・19世紀 東京国立博物館蔵 ㉔

【展示期間：4月13日～5月13日】

北斎らの洋風風景画は、劉生のヒントになったのではないかと思わせます。九段坂は、白壁の土蔵と強い明暗が施された盛り上がる土坡とはさまれ、上昇し、遠方が狭まり、頂点は短い水平線となって向こうに空が広がります。

## 『國華』とは

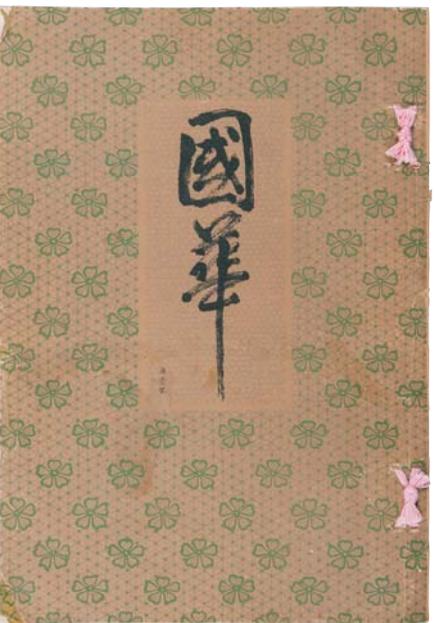
『國華』は明治22年(1889)10月に岡倉天心おかくらてんしん、高橋健三たかはしけんぞうらによって創刊されました。「美術八國ノ精華ナリ」(創刊の辞)から『國華』と名付けられ、当時の文化的な熱気を感じる新雑誌でした。日本・東洋の優れた美術作品について第一線の研究者による質の高い論文を掲載し、また日本・東洋美術を再評価し、素晴らしい美術作品を数多く紹介してきました。

大判の美しい図版も評判で、創刊当初は木版色刷専門の彫師・摺師を抱え、最新の印刷技術だった精巧なコロタイプ印刷も使用しています。

豪華な雑誌はほどなく経営的に破綻し、朝日新聞社の社主たちが経営を支え、昭和になってからは朝日新聞社が刊行を支援してきました。昭和52年(1977)には1000号を迎え、また平成元年(1989)には創刊100周年記念として日本・東洋美術の優れた研究を顕彰する「國華賞」を創設しました。

『國華』は刊行を続けている世界最古の美術雑誌であり、その存在と権威は広く海外にまで知られています。雑誌の内容は専門家による編輯委員会で決定され、編輯委員陣は日本・東洋美術史研究各分野の第一人者であり、国内外の作品の再発見や調査にも携わり、その成果を誌面に反映しています。

東京国立博物館と國華社、朝日新聞社は、平成20年(2008)にも特別展「対決―巨匠たちの日本美術」を開催しており、多数のお客様にご来場いただき、高い評価を得ました。



『國華』創刊号 明治22年(1889)

### 國華編輯委員

主幹 小林忠

有賀祥隆

清水眞澄

河野元昭

小松大秀

佐野みどり

島尾新

佐藤康宏

佐藤道信

板倉聖哲

顧問 辻惟雄

名誉顧問 水尾比呂志

創刊記念『國華』130周年・朝日新聞140周年 特別展  
Celebrating the 130th Anniversary of KOKKA and the 140th Anniversary of The Asahi Shimbun

# 名作誕生 ◆ つながる日本美術

Echoes of a Masterpiece: The Lineage of Beauty in Japanese Art

東京国立博物館 平成館[上野公園]  
Tokyo National Museum (Ueno Park)

2018年4月13日(金)～5月27日(日)

前期展示=4月13日～5月6日、後期展示=5月8日～5月27日

開館時間:午前9時30分～午後5時 ※金曜・土曜は午後9時、日曜・祝日は午後6時まで ※入館は閉館の30分前まで

休館日:月曜日 ※ただし4月30日(月・休)は開館

主催:東京国立博物館、國華社、朝日新聞社、テレビ朝日、BS朝日 協賛:竹中工務店、凸版印刷、三菱商事

展覧会公式サイト=<http://meisaku2018.jp/> お問い合わせ=03-5777-8600(ハローダイヤル)

## ◆観覧料金(税込)

当日	一般1,600円	大学1,200円	高校900円
前売	一般1,400円	大学1,000円	高校700円
団体	一般1,300円	大学900円	高校600円

※中学生以下無料 ※団体は20名以上 ※障がい者とその介護者1名は無料(入館の際に障がい者手帳などをご提示ください)

※チケット取り扱い:東京国立博物館正門チケット売場(窓口、開館日のみ)、展覧会公式サイト、各種プレイガイド。

前売券販売期間:2月1日～4月12日

お得な早割2枚セット券=2,600円(税込)を12月1日～1月31日販売!

## ◆交通案内

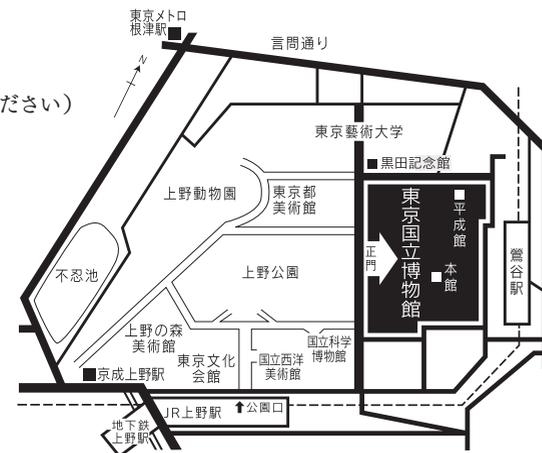
JR 上野駅公園口、鶯谷駅南口より徒歩10分/東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅、東京メトロ千代田線根津駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分

\*本展は他会場へは巡回いたしません。

\*その他の特別チケットや関連イベント等の情報は、報道リリースや公式サイトで随時ご案内いたします。

### ◇報道関係お問い合わせ

「名作誕生」展広報事務局(株式会社ユース・プランニング センター内) 担当/岩川・大山  
TEL. 03-3486-0575 FAX. 03-3499-0958 E-mail. [meisaku2018@ypcpr.com](mailto:meisaku2018@ypcpr.com)



**TNM** 東京国立博物館  
TOKYO NATIONAL MUSEUM

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9  
東京国立博物館ウェブサイト <http://www.tnm.jp/>

140  
朝日新聞



**TNM** 東京国立博物館  
TOKYO NATIONAL MUSEUM